

特定非営利活動法人日本ヴィーガン協会 「JAS ヴィーガン認証」事業計画書  
【創業者・創業メンバーのプロフィール】代表理事 鈴木真由美（室谷真由美）<https://vegans-life.jp/article/1519>

・ヴィーガンレストランの紹介記事 3350 店件以上、日本におけるヴィーガンの第一人者として知られる。

副理事(営業G長) 余語啓一

<https://vegans-life.jp/article/4331>

・日本のヴィーガン食材販売に老舗(株)かるな(ヴィーガン食材製造・卸)代表取締役であり、コンビニや大手レストランチェーンのヴィーガン参入の相談役を務めている。

事務長 白井由紀

<https://www.ain-soph.jp/>

・ヴィーガンレストラン経営及びフランチャイズ契約でヴィーガンレストランを6店舗経営している。

他 理事7名

【ビジョン・理念・目的】「ヴィーガンをわかりやすく」

・日本ヴィーガン協会は、どこよりもヴィーガンが美味しい国＝日本、「ジャパニーズヴィーガン」の素晴らしさを世界へ発信し、訪日外国人の皆さんにも日本のヴィーガン情報を届け、日本におけるヴィーガンの皆さんに、よりヴィーガンライフを送りやすい環境をつくることに努めることが、日本ヴィーガン協会の役割と考えます。

事業内容

【自社のサービスや商品の強み・特徴】

・ヴィーガン認証は EU、米国、アジアに様々あるが、すべて民間認証であり、規格も微妙に食い違っていた。「ベジタリアン・ヴィーガン JAS 規格」は国家が主導する世界初のヴィーガン認証である。

【市場環境】

・世界中でヴィーガン人口が増加傾向にある。

例えばイギリス。

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2019/37cf388c2950509f.html>

・2014 年時点で 15 万人だった英国内のヴィーガン人口は、2018 年時点で 60 万人となり、4 年間で 4 倍に

増えている。日本食も今や海外の日本食レストラン数は推計で約 5 万 5000 店舗。JETRO(日本貿易振興機構)の調査でも、「好きな外国料理」の 1 位に日本食、「外国人観光客が訪日前に期待すること」の 1 位に食事が挙がるほど、世界中から注目を集めている。一方で、高い人気にもかかわらず、それが日本食材の輸出に結びついていないのが現である。

### 【競合について】

・国内のヴィーガン認証については民間認証ベジプロジェクトジャパンが競合となる。まず海外展開において、JAS 規格の優位性があり、認証費用およびランニングコストについては、ターゲットとして同価格帯を目指したので、差別化戦略として、国家認証×民間認証として争えばシェアを切り崩すことは可能と考えている。

### 【販売やマーケティング戦略】 JAS・VEGAN × WASHOKU

・JAS 規格のヴィーガン認証を取得することにより、単なるヴィーガン表記よりもJAPAN 品質も同時に表現できる。アジア・EU・北米において訴求力を持つことができる。

### 【売上に関する計画】

	月間	年間	単品売上	更新	総売上げ
1年目	0.5	6	1056000	-	1056000
2年目	1	12	2112000	627000	2739000
3年目	2	24	4224000	1254000	5478000
4年目	3	36	6336000	2508000	8844000

### 【利益に関する計画】 実地検査費用支払い後の利益

	月間	年間	純益
1年目	0.5	6	561000
2年目	1	12	990000
3年目	2	24	1980000
4年目	3	36	2838000

### 【資金調達に関する計画】

- ・全額入金確認後に、調査を実施し、認証マークを提供する事業であるので、資金調達は必要としていない。
- ・家賃、サイト維持費については協賛会員年会費から充当可能な範囲である。

この事業は、インバウンドが社会経済の大きな割合を占めつつある中で、喫緊に必要とされている事業であり、日本の国際的な地位の向上にも貢献をするものである。今後 日本の優れたヴィーガン食材が世界に広まるにつれますます事業の将来性は大きく広がって行くと期待しています。

特定非営利活動法人 日本ヴィーガン協会 鈴木真由美  
〒113-0033  
東京都文京区本郷四丁目16番 6号文京区本郷四丁目ビル  
天翔オフィス 後楽園7階706-B号室  
TEL.050-3623-2122